

「地域の文化継承活動 助成事業」 助成金を使った活動が広がっています！

長野県能楽連盟

長野県能楽連盟は平成4年に能楽の普及振興を図るため、県内の能楽師や愛好家の皆さんによって結成されました。平成30年度からは、より多くの子供たちに能楽を知ってもらうため、長野市の小学校を中心に能楽教室を開催しています。

昨年11月25日に、長野市立城山小学校の6年生が参加して開催された能楽教室を見学しました。まず、能楽の歴史と特徴について説明があり、続いて能「船弁慶」の映像を視聴しながら、場面、舞台、所作、謡、囃子など能特有の用語を学習しました。

続いて2班に分かれ、「謡の指導」と「能面かけの指導」が行われました。「謡の指導」では、実際の謡本と拡大した縦譜・横譜を見ながら、子供たちも声を揃えて謡いました。「能面かけの指導」では、「般若」や「翁」といった12面の能面が用意されました。会員の皆さんの指導で子供たちには実際に能面をかけてもらい、演舞者と同じ状態を体感しました。視界が極端に狭くなるため子供たちは驚いていました。

これまで能楽教室で使用する能面は、開催の都度、会員の個人所有のものを借用していました。能楽教室を今後も継続していくためには、連盟が所有する能面が必要と考え、購入費用に今回の弊財団からの助成金が充てられました。

「能楽」というと高尚で難しい印象がありますが、会員の皆さんの指導は熱意と優しさに溢れ、能面や謡に目を輝かせる子供たちの姿が心に残りました。650年以上の歴史があり、奥深さに限りのない「能楽」の魅力が世代を越えて繋がっていきます。



寿小池町会「子ども広場」

寿小池町会「子ども広場」は、令和2年度に開設されました。公民館を拠点に地域の小学生に対して、食事や団らんの場の提供、学習や生活体験の支援、地域の文化伝承など、子供たちの生きる力を育み、地域での絆を深めることを目指し、運営委員の皆さんが自発的な活動を展開しています。

もともと町会では、公民館を中心に地域住民が交流する場が年に数回ありました。少子高齢化、核家族化が進むなか、地域のコミュニティの場が大人だけの集まりで終わるのではなく、「人と人がつながり」「支え合い」のための場となる必要があるとの考えから、子どもの居場所づくりの構想が広がりました。

「子ども広場」の開設をきっかけに、高齢者クラブ、子ども会育成会、公民館などの町会組織との連携や共催ができ、横の繋がりが進んでいます。また、松本大学の大蔵准教授と学生ボランティアによる学習支援など外部からの協力も得られています。町会の皆さんの思いを繋げ上げていったことで、「子ども広場」が地域一体となった「関係づくりの場」へと発展しています。

昨年12月18日に松本市の寿小池公民館で行われた「しめ縄づくり」を見学しました。弊財団からの助成金で新しく購入したプロジェクターを使って写真をふんだんに取り入れ、「正月飾り」について運営委員長の草間さんによりわかりやすい講義がありました。子供たちは、「しめ縄づくり」の伝統や意味が心に響いたことと思います。



長野市立七二会小学校

七二会小学校の3・4、5・6年生は「養蚕、シルク灯籠の作成」に取り組んでいます。校章にも桑の葉がデザインされたように、七二会地区はかつて養蚕が盛んな地域でした。養蚕の文化を継承し地域の活性化につなげようと考え、地域住民の皆さんから温かい支援を受けながら、5年前から養蚕の体験学習が行われています。

3年前からは、養蚕からできる繭から生糸を採り、シルク灯籠を制作することを考案。構造、デザイン、生糸の巻き方など試行錯誤を何度も繰り返し、現在のような製品に仕上がりました。昨年は更に改良を重ね、クリプトン球で切り絵、

押し花、木の葉が浮かびあがるオリジナルの灯籠を地域の皆さんに販売しました。

養蚕のための桑の葉が不足したときは、地区の住民自治協議会にお願いをすると学校にたくさんの桑の葉が集まりました。シルク灯籠に押絵、押し花、木の葉を綺麗に浮き上がらせる工夫は、岡谷市の宮坂製糸所からのアドバイスがありました。七二会に秋に飛来する神秘の蝶、アサギマダラをデザインした切り絵作成も協力していただきました。小学校に対する様々な連携協力により、地域一体の教育活動のなか養蚕の文化が新しい形で、次代に引き継がれていきます。



地域住民の皆さんのご協力が集まった桑の葉



家庭科室でシルク灯籠の巻き付け作業



シルク灯籠完成品

中古衣巫女舞愛好会

長野市中越区の「中古衣巫女舞愛好会」は、地域の伝統芸能である巫女舞を継承する活動を行っています。巫女舞の舞姫である小中学生の皆さんは、体験会を通じて巫女舞に興味を持ち、会に加入されました。

地域の皆さんや保護者の方々のご理解とご協力のもと、春休みや夏休みを中心に公民館での講習会に参加し、「豊米の舞」、「浦安の舞」を練習してきました。

芋井森中古衣神社や区の支援で、必要な衣装、神楽鈴などを調べてきましたが、今回、弊財団では、浦安の舞に使用する

る櫓扇4握（彩色雲入り、飾造花付、飾紐付）の購入費用を助成しました。

舞姫の皆さんは、更に巫女舞への意欲を高め、神社の祭事や公民館での文化祭、長野市の「伝統芸能フェスティバル」などで、巫女舞を披露しています。

秋祭りの締め括りに神社の社殿で舞を奉納した際は、境内に地区の皆さんが大勢集まり、美しく雅な巫女舞を見守っていました。



櫓扇を持った8名の舞姫



公民館での練習の様子



長野市の「伝統芸能フェスティバル」で披露